

高校生の 人権作文



生きるということ

御坊商工2年

堀 恭子さん

生きてるってどういうことなんだろう。今まで生きてきて、それほど「命」について深く考えたことや、命に関わる出来事を経験したことがありませんでした。毎日、いつも通り学校に行って勉強したり、友達と話したり、ごく普通の人生を歩んできたと思います。

私にとって今、生きているということ。は当たり前のことであって、普段から生きていくことが自然だと思っていました。例えば、私が病気で医者に余命3カ月と宣告されたとしても、きつとすぐには

数ヶ月前、親戚のおじさんとおばさんが事故で亡くなったと、母から聞きまし

た。小さい頃から、よく面倒を見てくれて何度も遊びに行ったりしました。しかし、今ではもう会うこともできません。

「たった一度の人生」というように、人間は死んでしまうと二度と生き返ることや、もう一度人生のやり直しができません。私たちは、何かあればすぐに「死にた

思います。

生きることも死ぬことも、運命の定めを除いては、自分次第なのです。

与えられた命をどのように過ごすのかは、自分自身が決めることだと思います。だからこそ、命を無駄にしてしまう前に私たちは、もう一度「生きる」ということについて考える必要があると思います。

私は、人の人生は長さではなく、その内容で決まるものだと思っています。たとえ短くても満足のいく人生なら幸せだし、長くても何の楽しみもなく、ただ毎日を過ごしているだけの人生とでは、生きる価値も違ってくると思います。

いま、この瞬間を精一杯生きること、それが私の目標であり、これから生きていく上で一番大切なことではないかと思っています。

死を迎えたときに満足のいく人生だったと胸を張って答えられる、そんな一生を送りたいです。

死んでしまったあと、体はなくなってしまうても、きつと人は人を支え続け、心でつながっているものだと感じています。

「生きる」ということ、それは人それぞれ考え方は違うけれど、与えられた命を決して無駄にするのではなく、この世に命を授けてくれた両親に対して、生きていることが楽しい、生まれてきてよかったと感じられる、そんな毎日を送ることが「生きる」ということではないかと私は思いました。

実感がないと思います。なぜなら、私自身今も生きているし、きつと明日も生きているだろうと思う自分があるからです。だけど、突然、家族、友達など私以外の人間がこの世からいなくなったら、どうでしょう。

いつも一緒にいたり、笑ったり、泣いたりして過ごしていた人が突然、自分の前から姿を消してしまうと、もう二度と会うこともできない、一緒に話すこともできない、ケンカしたり冗談を言っても笑いが合ってもできません。

い」という言葉を口にします。

嫌なことがあったり、生きていることが辛くなるとつい弱音を吐いてしまいがちです。

私自身、いままで軽々しく「死」という言葉を口にしていたけれど、今回の身近な人の死を経験したことで「生きる」ということ、「死ぬ」ということについて改めて考えました。

そもそも、私たち人間がこの世に生命を授かったとき、私たちは「生」と「死」という命の定めを受けて存在している